寛永のころ先乃丞為吉田のかたにこうはいまいり
まさ(さ)ゑ世ゑ為ゑ世ゑ為ゑ世ゑ為

寛永のすえ、先乃ゝ為吉田のかに、こうけいまして
まきの（さるぬ世より名残ゆき）あらはよりの
乃りまして、ものかたり、ゝゝ、おもしろ酒奈重ゝ
弟切金平天狗の尾羽ゝきぬき、おとゝ
小ゝ、ゝ、ゝ、

鶴田弁九郎

吉野市蔵

[illegible]

[illegible]

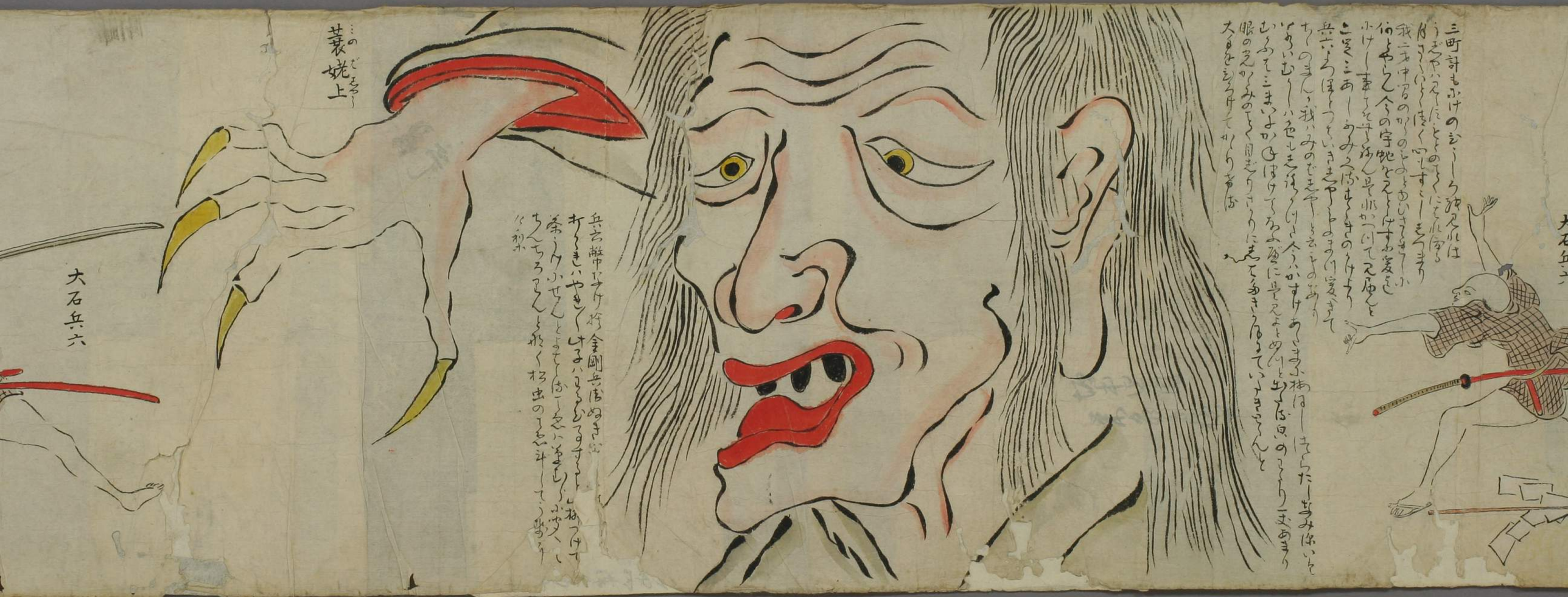
[illegible]

鶴田弁九郎
吉野市蔵
黒瀧段平
大川波右衛門
大石五六
大岸大休坊
大波岸右衛門

大川波右衛門
大峯
大休坊
大波峯右衛門
大石兵六
二里塚の
首玉
おなつの
黒坊

二里塚の首玉
あや名谷の毛の白
白金の尾き毛
ふ林のあり丸
おなのとりの黒坊

宇蛇
大石兵六


蓑姥上
大石兵六

蓑姥上
大石兵六

三眼猴猿

大石兵六

さてしたの兵六ハ[illegible]
[illegible]
合戦[illegible]
[illegible]
こけいまろいつ行ぞ兵六殿
おんぼふけてもの[illegible]
そんぞ[illegible]ふ行[illegible]
まをて行ぬけ[illegible]
[illegible]
たく口ひ[illegible]
[illegible]
[illegible]

ぬるぬる
ぶよぶよん
兵六

頬紅太良
大石
兵六
兵六

大石兵六

無六むさの岡すれかりくのうけ　ものふ坐合氣しちうまなき
をて今東を何時ゆてあんて東のはけよりとえうの
てにいこと世むに初りのて今東八時うしの刻
東のあけたうまんとすれうまはけ月こ川くふうよふよ
おりと首節を乱きまうにこのまれこ光り深とうれせく
にとかりたおふはうれありうう花のはは高きいきは元
道乃いうう月見まき切うまれほつにうしたうくみたう
久刻

大石
兵六

ぬけ殻つかう

ごりくつう

行先そこなひ忘れまもい必勢つゝれたるめまかろこゝろ
愛まてもきいこぬうとそこなひを兵古衆生ひすると
しろくくゝいまゝぬそしとはきりこふゝくこゝ大こゝ名こて
答ふひきそいきそうり何をゝうとそ使きは我川ゝ
ぬけ殻つかうとゝふよりすりとて目ひしてこゝ四大ゝり他
色ゝもさしやこゝん乃てくあをこゝゆゝりくゝとゝりこゝ

古石
兵六

ぬり屋うかう

行先こゝ名こそ忘れまゐ少敷つれよろめきかゝるこゝろ
愛まてゝきゝこゝぬゝとこゝえ匠れを兵衛に来生しすゝ
とゝくゝくゝゝ事ゝぬそとゝ法りゝゝゝゝ仙ゝゝゝ大ゝゝゝえて
貪ふひゝきそゝ考ゝゝ何をみゝゝゝえ侍きは我身ゝ
ぬり屋うふうとゝふゝよゝ事ゝとて目ゝしてゝゝゝ四大ゝゝ他
色ゝをさしやゝゝゝんゝあをゝゝゝゝりくゝとゝゝりゝゝ

行先小川ありしゝろゆを
ぬり屋ゝゝゝゝ時の天車を
金剛寺の住持よりゝゝ
老僧ゝゝゝゝ動のぢくのげ
なとゝゝゝれは化物ゝうせて
ゝゝゝゝゝ

大石兵六

行先小川あり。こゝをゆき
ぬつ原にかゝりけ時の大事や
金剛寺の住持よりさゝ
老僧まこゝろ金剛のおくのげ
ばとなりあれは化物いうせて
こゝをよりそう

大石兵六

兵六さま人くのたけよりのふ出合大森ちからをゝ四威のおうまいは
多まこれしゝよ家来の者をおほく長屋をゝ
勇士弓矢とふ見ゆ用心ふかきつゝ
きゝる金剛寺落ちさく
ぬくるんゝ
たけしゝかゝるものをゝ
はきき多るおふ。うや原をよ
ゝ。りゝ兵六まゝ
ゝ。ゝ。ゝ。

兵六さまくのたけとのふ出合大森ちかくを西成のかうまいは
多まくれしうと家来の者とおほく其所七をうの形をく
勇士弓矢とふ是おく用心ふかもきつふいなり　兵六多のみ
きろうろう金到を落なさく形は格何とすきやとなみ
ぬくろんくと記うは神しちきれてつゐは紙にて
をはくしかほのをはなぬくいうそ首代ぬくしきろくく見
はきき多るあふ・うや原をよ
ろくくうり兵六きろうい
ろれくうと追つのく二疋の狐を
うくいはをくけるくくう
ろ心はせしかい狐ちのきはふ
なしいかるの尾にりぬき
きろの狐りきあくゆ
はきて焼討ろ
ぬのさうきうり
せんとうの縛ふ
きさみくをの
をきてきくふ
きはくけ
行るよけて
あゆくり

大石
兵六

兵部尤衛門

四五丁と行しかいむふより男一人見ふ傳
あゆくろる兵六ほいろくいうの親おいてをの
尺ぶてきんとあうきやみ郎のこいちろ
ふけ色くまふ解尺れは思ひとよくぬ父乃
兵部尤衛門条小紋ろくいろに定紋乃芳吉
茶二尺三寸古刀の子寿院ゆ波のいんでん次
きんちやくふ栗の木の杖を

四五丁も行し所ふむふりの男一人見ふ傳来
あゆ〻こゝる兵六はいろ〻六ふ〻親おいさきの
尺ばかりてまんとあるゝ赤ゆみ即のこいちろ
ゆけば近くまふ能ゝれは田しとよゝぬ父乃
兵部大輔門まゝ茶小紋ろゝ記に宗教ろ芋煮
業工尺三寸古此の石舞院ゝ波のいんでん光ゝ
きんちやくふ葉の木の枝を
ろゝとゝ見行ふ時十八歳
をゝきさしのゝふつゝ
ぬき南無あゝ仏くゝ後生
一度んふ世のゝりをゝ
何のゝふく歩ゝよれ兵六お
一時日ふゝとゝ
当でゝのゝ

何史夜中ふ傳り落すと
土よるをつきゝける兵部大輔
今二三ゝを遥西ゝに苦ゝ
ゝけゝ月ゝゝゝゝ
うつゝのゝしゝにんをゝけゝんゝ
ゝはゝゝけゝゝ白金ゝふゝて人を妨ゝふゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

森岡のおらん
藪の内のおきく

二人の男すみいてぶるぶる泳ぎにいまを盛りの男の首我切て土の内
陸よりふこまんにくい男あ今伴ゝ せすすてふきんとする
所よりの国とりきしっまんかちけくい和尚英色の衣ふ自毛ろかいす
をとりに小侍にみくきれ山青紙ゆえつけ法い見ふくいのとのなれ愛て
せいもあするふねるしとのきまみ 侍をこれをきてくよめ浪をきて
を張ふきまきのめ城ちゝ引 つれて行てくれのくゝ法ふてこ
のきぬくせちのけ上 行やゝ のるゝ仕出しきん いつき愛て首を刎

二人の男すみいてぶきを持ちにいまを[illegible]
陸よふ[illegible]にくい男の会伴[illegible]
所よ何国ちりきしっちんかちけくハ和尚英色の衣ハ白毛ろかいす
[illegible]ハ法ハ[illegible]ハ者統ハ[illegible]
せいをあするふわるしとのうきの
[illegible]
[illegible]
のまぬくせちよけ上

けんと
いいれハ
和尚ハ
[illegible]
去ぬ[illegible]
私[illegible]
まいりかりてえの[illegible]
[illegible]
叶ふまし[illegible]
[illegible]
なるまてて[illegible]
[illegible]
[illegible]

大石
兵三
心岳寺の
伝和尚

心岳寺和尚
あや丸谷よ
大石兵六
心岳寺の
坊和尚

平川乃
せ形七り
心岳寺和尚
あや免答ル

平川乃
せ形七り
あ孫のもとゞ星形
金太郎の
ねぶり
二里塚の
角力
みゝ孫の
あり也
兵六入道ひよりとを
そ
さそ成
ひとりぐるいよ
いくれもせんしるく

おろの
二里ばら
くしたま
地蔵ヶ川
若山浪乃年

大石
兵六
蓮屋
大岩大休坊
壽田毎九郎

大峯大休坊
大峯大休坊
吉野市兵
大川波高
黒龍
飛車

大川渡り

享龢元年辛酉六月日

大石兵六物語

元

ヘ13
1345